

## 研究・研修

### 1. 目標

(研究テーマ)

「自らを拓く学びの力の育成をめざして」  
～聴き合い、学び合う授業づくり～

(テーマ設定の理由)

本校の生徒は、素直で真面目な生徒が多く、指示を受けたことや、方法がわかっている活動に対しては意欲的に取り組むことができる。しかし、思いや考えを伝える力や集団としてのつながりが弱く、自己肯定感が低いという弱みもうかがえる。このような実状は、一方的な知識の伝達中心の受け身の授業が多いことや、思いや考えを交流し合う経験の少なさからくるものと考え、昨年度より、「聴き合い、学び合う場を意図的に授業に組み込み、工夫していくことで、ともに関わり合い、安心して学び合える関係性が育つとともに、生徒一人ひとりの自ら学ぼうとする意欲が高まり、豊かな学びの力が育つであろう。」という仮説のもと、「聴き合い、学び合う授業づくり」という研究テーマを設定し、授業改善に取り組んできた。

その結果、生徒からも、「4人班で取り組むことでわからないことを聞きやすくなった」「いろんな意見が聞けて、よかった」などという声が聞かれ、なかまと意見交流しながらの学習を楽しみと感じ始め、思いや考えを伝えようとする姿勢・力も少しずつではあるが育ってきている。しかし、伝えるという発信の力は育ちつつあるが、それを聴いてさらに自分の考えにつなげていこうとする積極的な受信の力が弱く、お互いの考えを受けとめ合いながら、さらに自分の考えを再構築していこうとするところまでには至っていない。

そこで、本年度はこれらの現状をふまえ、「聴くこと」「聴いてさらに自分の考えを深めること」に焦点をあて、さらに取り組みを深めていきたいと考える。

「学び合い」とは、モノやコト・なかまとの出会い（対話）を通して、新しい自己が確立されていく営みであるが、そこで最も大切にしたいことは「聴き合う」関係である。「わからない」というなかまの声に耳を傾ける。その声に精一杯答えようとする中で、新たな考えが再構築される。「あ、そうか」と、なかまの考えを聴くことで自らの力で解決に向かえる。「私はこう思う」「僕はこう思う」というなかまの多様な考えに耳を傾けることで、新しい発見が得られる。自分の考えとすり合わせ、一人では辿りつかなかった深い考えを見いだすことができる。この能動的な受信の力こそが、学びを深化させるのに最も大切な力であると同時に、これらの一人ひとりの思いや考えを大切にしよう関係づくり、お互いを認め合える関係づくりは、「誰もが安心して学べる居場所づくり」そのものであり、一人ひとりが自己肯定感を抱きながら、安心して学びに向かえる大切な土壌づくりにつながるものであると考える。

さらには、この「聴き合い、学び合う授業」の中で培われる「学びの力」は、人と人とのつながりから生まれる「豊かな学びの力」と捉えることができる。この「豊かな学びの力」は、なかまとの関わりを通して自分の考えを深め、自ら課題を解決していく力、即ち「自らの道を切り拓いていく力」につながる力であり、学校教育目標「夢をもち、心豊かで、たくましい生徒の育成～感動・感謝・そして成長～」の実現に向けての確かな取り組みとなると考え、全職員で願いを共有し、研究と実践を進めていくことにした。

### 2. 重点目標

- ・1, 自分の思いや考えをもつ力を育む
- ・2, 自分の思いや考えを伝える力を育む
- ・3, なかまの思いや考えを聴く力を育む
- ・④, なかまの思いや考えを聴き、さらに自分の思いや考えを深める力を育む
- ・5, なかまとの関係性を大事にし、高め合う力を育む

### 3. 重点目標を達成するための実現方法

- ・1, 各教科における「聴き合い・学び合い」についての研究実践
- ・2, 各領域における「聴き合い・学び合い」についての取り組みの工夫
- ・3, 研究授業・オープン授業を通しての生徒の実態把握・意見交流
- ・4, 校内研修を中心とした、全職員による「聴き合い・学び合い」についての研究協議

### 4. 研究計画

- ・全職員が毎時間の中で「聴き合い・学び合い」を意識した授業実践を行う。  
(授業の視点：聴き合う関係〔ジャンプ課題・4人班・教師の役割〕学びの自分化〔振り返り〕  
(具体的な方法(項目)を生徒に明示する。〔学びの作法・学びのシート・学習隊形等〕)
- ・各領域の活動においても各担当を中心に聴き合い・学び合いを意識した取り組みを工夫していく。  
(道徳・学活・総合的な学習の時間・生徒会活動等)
- ・全職員が年1回の研究授業を行う。  
(11月までに3回の提案授業を行い、全員による参観及び協議を行う。)
- ・研究授業だけではなく、普段からお互いの授業を見合って、感想を交流するオープン授業にも取り組む。
- ・授業後は学年団を中心に研究協議を行い、「生徒の学びの姿・教師の役割」についての検証を行う。  
(ビデオを視聴しての研究協議とし、意見交流の活性化を図る。)
- ・公開研究会を実施し、研修テーマにせまる取り組みを客観的に捉え直す機会とする。
- ・講師招聘や先進校視察等を通して、さらに「聴き合い・学び合い」についての研修を深め、力量を高める。
- ・生徒の願いや生徒自らの力をもとに取り組みを進めていくための工夫を図る。  
(生徒会によるスローガンの提示・学びのシートによる生徒自身の学びの力の意識化等)
- ・アンケートや各調査等における生徒の実態把握及び教師自身の振り返りを行い、学びの姿についての検証を行う。

4月	研究テーマ・研究内容・研究計画等の確認
5月	研究授業 研究協議 (提案授業)
6月	研究授業 研究協議 (提案授業)
7月	研究授業 研究協議 1学期の取り組みの総括
8月	今後の研究課題の整理と共通理解 研究発表会に向けての指導案検討
9月	研究授業 研究協議
10月	研究授業 研究協議 (提案授業)
11月	研究授業 研究協議 研究発表会
12月	研究授業 研究協議 2学期の取り組みの総括 今後の研究課題の共通理解
1月	研究授業 研究協議
2月	研究授業 研究協議 本年度の研究の成果と課題の確認 学びの姿についての検証
3月	本年度の研究のまとめ 来年度に向けての研究テーマと研究内容の検討・確認

### 5. 研究体制

